

台湾高校生日本留学事業第6期 留学成果報告

当協会の台湾高校生日本留学事業では、台湾の高校生が日本の高校に約1年間留学し、日本の高校生と同じ環境で生活を送りながら、日本の社会・文化・歴史等を学ぶ機会を提供しています。第6期生15名は、2023年7月15日に留学の全プログラムを終了し、帰台しました。今月号では、留学を通して成長したことや学んだことについて、4名の報告を紹介いたします。

自ら機会を創り出す

東京都立翔陽高校 許子微

この1年間を通じて自分の中で一番成長したのは積極性です。

目標の1つとして私は日本語を上達させたいから留学に行きました。それをしっかりと達成するために人とたくさん話して会話能力を身に付けていきたいと思いました。最初の頃、私はまだ自分の日本語に自信がなくて、人と話す時は共通の話題が見つからなくて、話が長く続かないのが怖くて、なかなかクラスに馴染んでいませんでした。友達がいるのですが、いつも同じ人達にしか喋れなくてそのままではうまくならないと思って、積極的に行こうと決意しました。

転換点は留学して約2か月が経った11月の頃、その前はずっと電車に乗ってからバスに乗って学校へ行っていました。駅についてバス停の前で大列の一番後ろに立ってバスを待つ。たまに、知り合いに会ったとき手を振って挨拶しますが、その中で隣クラスの女の子がいて、バス停でよく会いました。とある日、彼女は朝バス停に来なくなり、勇気を持って尋ねてみると、最近は歩くことになりましたと、彼女はそう私に言っていました。せっかく少しでも仲良くなった気がしてこのまま終わらせたら成長にならないと思って、勇気を全部出して、断られる心構えをしてインスタで彼女を誘いました。「私はあなたと一緒に歩いて学校に行きたい」と、声をかけ

てみました。彼女は少し驚きもあったと思うのですが、私たちは毎日一緒に登校することになりました。

毎日駅から徒歩だと片道約25分かかる坂だらけの道のり、私は彼女のタイミングに合わせるよういつも通り一本早い電車に乗らないといけませんが、それにしても関わらず毎日6時に起きて登校していました。最初はやはり違うクラスなので関わりはあまりなかったためそこまで親しくなかったですけれども、毎日30分の話をするものすごく速いペースで仲良くなりました。

その後一緒にたくさん出掛けしたりお昼を食べたり、帰る日にわざわざ駅まで迎えに来て、元々関わりがあまりなかった隣クラスの女の子とここまで仲良くなるなんて想像もつきませんでした。もしあの日に自分から声をかけなかったら、多分私たちはそこで朝の挨拶すらせずどんどんよそよそしくなっただろうと、私たちもこれについての話をしていました。

その後、私は自ら行動する積極性の重要を知り考え方が変わりました。文化祭でピアノを披露した先輩に声をかけてみたところ、案外その先輩はずっと留学に興味を持っていて私がきっかけになって先輩は中国語を勉強し始め、初めての海外旅行で台湾に行き、大学の進路まで外国語を専門にしました。また、友達に出かけるのを自分から

誘いに行って、唯一の休みの日の日曜日がほぼ埋まって大変でしたが、たくさんステキな思い出を作ることができ、友情も深めることができました。

社交的なところだけに関わらず、ほかの目標にも実践しました。私はずっと作曲を試みたかったのですが機会がなかなかありませんでした。そこで、「最終登校日にみんなの前でピアノを演奏したいです！」

と、私は先生にそう提案しました。留学のまとめとして、この1年間みんなにお世話になった感謝の気持ちを込めて自作しました。ピアノがないので先生に頼んでテスト期間の放課後の時間を使って、毎日5時間ピアノを練習していました。最後まで順調に好きなピアノを通じて自分なりに生徒や先生に気持ちを伝えることができました。

私は「留学生」という身分で留学しに来てまったく新しい環境に入り、知り合いは一人もいないゼロのような感じで不安はもちろんあると思いますけれども、一方、私たちは新しい自分を作り出すゼロということであって、何かを失う恐れも全くなく、ただ後悔を残さずに自分からひたすら機会を作り出せばいい。少しわがままでもいい、1年間は本当にあっという間なので辛い思いなんて長くてもこの1年間で終わるからどうすればこの

11か月を最大限に豊かにできるか、私はこの考え方で留学していました。結果としては、本当に最高に幸せな一年間でしたしか言えません。

留学を通じて私は積極的に物事を組み立てるようになった気がします。この伸びた能力はこれから様々な領域に活用していきたいと思います。



友達と行ったディズニー

友達と青春：留学の成長と学び

筑波大学附属坂戸高等学校 楊采融

1年間の留学で学業や自分自身の成長など、多くのことを学び、大いに収穫があった1年だと言える。今回学んだことと成長したことが4つあると考える。

1つ目は、青春と友情である。日本に行ったばかりの頃は日本語に自信がなかった。あまり聞き取れなかったし、話すのもしんどかった。この状態で学校の始まりを迎えた。学校が始まる前に、言語の壁で人間関係や授業が聞き取れないことを心配していた。不安な気分ですぐ教室に入って、みんなと会った瞬間に、思ったより優しくて熱心な生徒たちがたくさん話しかけてくれて、みんなとすぐ仲良くなった。その時から全てのことを心配せずに留学が無事に終了できると思った。1年間に友達のおかげで、自分は性格がより外向的になった。また、いつも「偉

い」「日本語の発音上手い!」「日本語上手!」と褒められて、日本語に対する自信も持てるようになった。更に大切なのは、「友情」と「青春」が学べたことである。日常生活でみんなから勉強以外の青春の姿を見て、同じ高校生なのに、なぜみんなの高2の生活は自分のとこんなに違うだろうと思ってしまった。みんなと過ごしていた1年間に、色々なことを体験できて、楽しい青春の過ごし方も学んだ。

2つ目は、語学力である。1年前の私は、外国語を喋る勇気があまりなかった。台湾の高校では日本語学科の所属なのに、日本語を喋ると、緊張し、文法の細部を気にし過ぎ、上手く喋れなくなる。その原因は、周りの生徒たちも一緒に日本語を勉強しているため、もし少し間違えたら、自分は日本語学科の生徒ということと言う資格がない

だろうと考えた。しかし、前段落で言及したとおり、日本人の友達によく褒められて、このマインドセットが大きく変わった。

3つ目は学校の授業やテストや課題などから学んだスキルだと考える。そのスキルはコミュニケーション能力・論理的思考力・内省的能力である。学校に自分の考えを他人と共有しながらディスカッションする授業と論述問題のテストが多くて、このような活動を通し、多方面から物事を考えられてきて、分かりやすい説明で相手に自分の観点を伝え、論理的思考力とコミュニケーション能力が伸びてきた。また、相手の観点を飲み込めて、お互いの理解も促進できる。この能力はこれからの学校生活でも職場でも大事だと考える。内省的能力については、学校の授業はいつも振り返りの課題があり、毎回の振り返りを通し、できたことがあれば、自分を褒めて、自信も持てるようになった。できなかったことに対して、改善点を考え、次回で更に努力し、より良い自分になるために頑張る。振り返りの課題は台湾の高校でやったことがなくて、最初は少し慣れなかったが、書けば書くほど自分の長所と短所が分かってきて、とても良い練習だと考えてきた。帰国しても、この習慣を続けようと思う。



友情と青春

留学で知れた『違う』日本語

11ヶ月間の留学の間で、自分の日本語能力は顕著な成長を迎えることができました。来日してから間も無くの頃と比べて、今は当時よりも流暢で、自然な日本語を使えることができ、中でも今まで学んできた日本語と一色違ったのが



校外のスピーチ活動

4つ目は、自分の性格である。これは留学を通して一番成長してきたことだと考える。性格ということは少し抽象的だが、1年前の自分を今の自分と比較したら、大分変わってきた。1年前の自分は、どんなことに対してもネガティブな考えを抱き、自信をあまり持たず、行動力もなかった。しかし、留学で以前の自分を変えるために、様々な活動に参加し、やってみた。例えば、初めてのスピーチコンテスト・ビジネス検定・論文を書くなどである。また、部活動で演奏の機会があれば、全部掴み、参加してみた。振り返ると、一生懸命にやったら、以前できなさそうだったことを全部達成した。全てのことをやる過程はとても大変だと思ったが、全部乗り越えられたことによって、どれほどの勇気と自信を持っているのかを意識した。これからより大きな目標を立てて、挑戦してみたい。

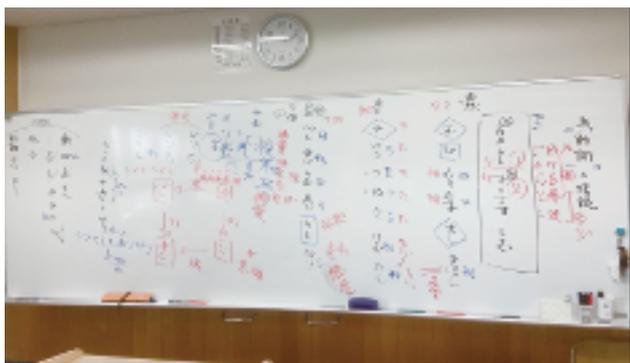
最後に、今回の留学で様々なことを学び、成長してきたが、全てはただの序章だけだと考える。これからの長い本番の人生で、大いに収穫があった一年間の経験を活かし、新たな目標を探し、自己成長できるように、輝き続け、頑張っていこうと思う。

早稲田摂陵高等学校 王謙祐

「関西の日本語」であるところです。自分は留学の最後に、先生や同級生から自分は「すっかり関西弁の日本語になった」と言われることが何回もあり、親近感がある話し方なのでいいことであると先生に言われたのでした。

留学する前、同じ学校で留学したことがある台湾人先輩から聞いたところ、9割以上が関西弁を用いて喋っていたらしく、自分も当初とてつもなく関西弁が多く使われている場所だと思い込んでいましたが、実際現地で暮らしてみたところ、学校の人たちはそこまで関西弁といったわけではありませんでした。勿論関西弁の色がとても濃い話し方をする同級生や先生も何人かいましたが、一文の全部を関西弁にする代わりに、いくつかの単語だけ関西弁のものを用いる形式が一番多かったです。それでも今まで学んできたイントネーションと些か違うもので満たされた教室はとても興味深いもので、自分もその中から言葉と文化を沢山吸収することができました。

調べてみたところ、関西弁とは1つにまとまった方言ではなく、近畿とその周辺地域の複数の方言を示す通称らしく、「ファミマ」「マクド」などを言いたい時、出身地がそれぞれの友達が違うイントネーションや略し方を用いていた訳を知ったのでした。標準語で「来ない」という言葉も「こーへん」「こーひん」「きーひん」などのバリエーションがあるらしいとのことでした（実際自分が耳にしたのは大体「こーへん」一色ではあったが）。留学中は聞き流すのみならず、知らない言葉と言



言語文化の授業で書かれた板書

夢が与えてくれた成長

私は2年生で松戸市立松戸高校の国際人文科に入り、3年生に上がると同時に普通科に入りました。この約1年で、大好きな言葉で大好きな国で暮らせて、いまだに夢を見ていたように思えます。もちろん楽しいことばかりではなく、壁にぶつ

かい回しがあったらすぐ調べることと、その環境に身を置いていることから、言葉と文化の面で日本、そして近畿について沢山学ぶこともできました。

関西弁を身につけることは、現地の人との距離感をなくす上で有効的な手段だと思いました。それでも実践するにあたり、一番苦戦したのが「イントネーション」でした。自分にとって、関西弁のイントネーションはとても難しいものであり、こだわるあまり、そもそも日本語としておかしい発音になってしまうことが多々ありました。それでも11ヶ月間の留学中に何回もの試行錯誤を行い、留学前よりはかなりの上達を迎えることができたと思います。今まで学んできた日本語では伝えきれなかった気持ちやシチュエーションを表す関西弁ならではの言葉も同時に身につけることができたと思います。それを同級生や先生が使っているところを自分は観察し、真似することから、自分は現地の環境に馴染んでいき、溶け込むことができたと思います。

日本語そのものの上達は、この十一ヶ月間で手に入れた最も役立つ技能の一つだと思います。留学し始めたばかりの時は会話の途中で不自然な言葉遣いや文法的におかしい表現を使ってしまうことが多々あったものの、今となればそういった問題がほぼ起こらなくなりました。語彙力はもちろん大いに増強した一方、現代の国語の授業で鍛えられたのは、論説文を読むことに当たっての能力と興味でした。授業を通して、複雑な知識や抽象的な概念について述べている日本語の文章を、普通の日本の高校生並の速度で読み、理解することができるようになり、そういった文章を読んでいくことから、興味のあるジャンルの新書を読むことも留学中に試みて、日本語で学問を学ぶことに興味を感じ、日本の大学に進学したいと思ったのでした。

松戸市立松戸高等学校 邱心郁

かったり、落ち込んだりすることもありましたが、その中で自分がまだ成長できることを多く見つけることができました。このレポートを通して、自分が一番成長したと思うことを述べていきたいと思っています。

私はこの約1年で一番成長したところは自分の考え方だと思います。留学して、人生で初めて一人暮らしをしました。実際に一人暮らししてから、その大変さを知りました。家事は昔から家の手伝いをしていたので問題はなかったのですが、一番時間をかけて慣れたのは夜1人で部屋にいました。今まで経験したことのないことで、何があっても一番親しい家族や友達もいない環境にいるのは少し心細かったですが、いる時間が長くなるにつれて、1人でいる事にだんだん慣れてきました。1人でいる時間は台湾にいる時よりもずっと長く、その時間を利用して毎日ゆっくり自分を見つめ直すことができました。今日何できたのかを振り返ったり、今日できなかったことを反省して、次はできるように改善したりして、より多く成長したいと思いました。それから、1人で出かけることも昔より沢山できました。日本に来た最初は池袋へ、それから秋葉原や渋谷や埼玉など、遠いところにも行きました。そんなある日に気まぐれで映画館を通りかかった時、そのまま10分後に上映する映画を1人で観に行ってしまうことができました。これは決して台湾で1人でできなかつたことで、鼓動が高鳴るのを感じながら、映画を鑑賞しました。昔は1人で映画を観ることと自分で旅行に行くのは怖いことだと思いませんでしたが、実際にしてみたら案外とても気楽で、心地よかったです。それから沢山1人旅と1人映画を楽しむことができました。

次に、私が2年生の時に入っていた国際人文科は父母親がのどちらかが外国人、所謂ハーフのクラスメートが多く、日本人だけではなく、他の国の人と交流を通して、色々な人の考え方や、視点

などを知ることができました。人と交流することによって、私の考え方も少しずつ変わっていききました。昔はただ理解できないことをそのまま深く考えないようにしていましたが、今は色々な立場を想像した上で考えて、より思いやりのできる人になりたいと思います。

最後に人間関係を振り返って、自分がどうやってここから学んだのかを述べていきたいと思います。この約1年で、一番時間をかけて乗り越えたのが人間関係でした。文化の違いや、人それぞれ持ってる個性や性格など、必ず合うと合わない人がそれぞれいて、私はそんな複雑な人間関係に悩まされていましたが、悩んでいるうちにも、自分の足りないところをいくつか見つけて、相手の気持ちも含めてより広く考えるようになりました。今まで台湾でそんなに友達もいなくて、人に声をかけるのも怖がって、できる限りのやり取りをしかしていなかったのですが、日本に留学している間は、自分がまず何かしらの行動を行わないと、何も始まらないと思いました。ですので、日本で頑張っって勇気を出してクラスメートと沢山お話しすることができてとても嬉しく思いました。

この約一年の留学は私にとって夢でもありましたが、同時に試練だとも思いました。もしこの経験がなければ、私はこうやって自分を振り返ったり、どこが成長したのかを思うもしないだろうと思います。この経験を活かして、より良い人間になり、より多くの人と交流して、視界をより広く広げて、将来について考えていきたいと思います。この留学を通して、自分がずっと悩んでいた大学の志望校や方向も決まり、これからはそれを達成できるように頑張りたいと思います。



一人旅で行った秋葉原の写真



普通科でクラスメート全員と撮った写真